

- 。講話 「情報化時代の教育広報」
福島県教育庁総務課主幹 小平卓男

- 1月10日 教育委員長に聞く
- 2月21日 少年スキー教室
——会津少年自然の家——

(2) 昭和56年度東北地区広報研究協議会

- ① 主 催 文部省・岩手県教育委員会
- ② 期 日 昭和56年10月27日(火)・28日(水)
- ③ 場 所 南部富士見ハイツ(岩手県雫石町鷺宿)
- ④ 内 容
 - 。講演 「文教行政の当面する課題」
文部省大臣官房総務課広報室
課長補佐 佐野英孝
 - 「マスコミと行政広報」
岩手日報社編集局長 多田代三
 - 。研究協議「コミュニティ作りと文教広報」
(事例発表)

- 「コミュニティづくりに果たす文教広報の役割」
秋田県教育委員会秘書企画課 田口公夫
- 「教職員の意識と広報」
岩手県遠野市教育委員会指導室 荒田凱夫
- 「地域連帯感を高める広報活動」
山形県庄内教育事務所 鈴木法子
- 「七ヶ宿町公民館の事例発表」
宮城県七ヶ宿町公民館 伊藤 東

- ⑤ 参 加 者
東北6県の教育委員会関係者、並びに市町村教育委員会の関係者80名が出席。
本県からは、県教育庁総務課から1名、市町村教育委員会事務局(いわき・郡山・福島)から3名が出席。

11 県政広報との提携

(1) テレビ

- 。F T V 「茶の間の県政」(毎日曜日8:00~8:25)
 - 5月10日 県教育長に聞く
——今年度教育方針——
 - 6月14日 国際障害者年シリーズ
すべてのこどもに教育を
 - 8月9日 ふるさとの文化財
——田島祇園祭——
 - 8月16日 自然の中でたくましく
——会津少年自然の家——
 - 11月1日 ふるさとの文化財
——仏 堂——
 - 11月8日 県文化功労者に聞く
 - 1月17日 未来をひらく生涯教育
 - 2月14日 軌道にのる県文化振興基金
- 。F C T 「こんにちはふくしま」(毎日曜日10:30~10:50)
 - 5月10日 子どものしつけ
 - 8月2日 軌道にのる文化三施設
 - 11月1日 県政最前線シリーズ
養護教育にかける
 - 12月20日 進学決定を前にして

(2) ラジ オ

- 。R F C 「みなさんとともに」(毎土曜日9:25~9:40)
 - 6月6日 会津少年自然の家を訪ねて
 - 6月20日 障害児の教育
 - 7月18日 気をつけよう夏休みの非行
 - 10月10日 体育の日にちなんで
 - 11月14日 心身障害児の就学指導
 - 2月13日 学生寮を訪ねて
 - 3月6日 もうすぐ一年生

(3) 新聞・その他

- 福島民報(11月22日ゆとりと充実の教育)、福島民友(9月20日親子のふれあいを大切に——幼児期豊かに育てよう——、1月17日教育環境の整備すすむ)、中央紙(読売・朝日・毎日・サンケイ・河北・日経)、あいづ毎夕、月刊ふくしま、福島自治等の紙上に、教育に関する事項を随時掲載し広報した。

第6節 調査統計

昭和56年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧の刊行

昭和56年5月1日現在で調査した学校基本調査(指定統計第13号)の調査結果により、県内の国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校、幼稚園、専修学校及び各種学校の学校数、学級数、児童・生徒数及び教職員数等の基本的事項を収録した学校統計要覧を刊行して、本県の教育行政上の基礎資料として広くその活用を図った。

2 地方教育行財政調査

この調査は、昭和55会計年度において、教育費がどのような財源から支出され、どのように使われているか、また、昭和56年5月1日現在における教育委員会の類型・組織及び教育機関数等の実態を調査し、教育行政等に関する諸施策の資料にすることを目的としている。

また、この調査の結果については、報告書を刊行して、教育水準の向上と教育諸施策策樹立のための資料として広く活用を図ったが、結果の概要は次のとおりである。

(1) 地方教育費の調査

① 総教育費

学校教育、社会教育及び教育行政に支出した総教育費は、表1に示すとおりである。